

### 火保会社と保険案内

前回の記事で戦前の火災保険会社の「保険案内」のうち消防活動に関連する図柄を取り上げてみた。不謹慎な話だが、小学生低学年の頃は火事を見物したかった。通っていた幼稚園の近くに消防団があり、また時々市内を消防車がけたたましいサイレンを鳴らして通り抜けていったが、「見物」できるほど近くで火事があることはなかったのである。

火事というのは、消防車のサイレンによって時々起こるということがわかっているものの、身近なものとしてその恐ろしさを体験することは稀である。火事に備えて火災保険に加入する人を増やすには、火事がわれわれにもたらす災いを具体的に理解する人が多くすることが必要である。火災保険会社の「保険案内」には、前回の連載でも見たように火災やそれに関連する図柄が採用されることが多かったのはそのせいであると思われる。このことは、生命保険会社の「保険案内」と対照的である。生命保険では、会社の安定性や成長性を連想させる図柄が多く採用された。

古典的な歴史研究は、文献史料が中心となり、文献以外の史料に無関心であった。「百聞は一見にしかず」というように、視覚は文字情報以上に豊かな情報を提供してくれる場合もある。現代の歴史研究では、狭く文献史料にとじこもらず、非文献史料を有効に活用するのは常識となっているものと思われる。わが国の保険史研究は、まだ文献史料中心に展開されているが、「保険案内」を中心として多くの画像史料が残っている。これらの史料の多くは、図書館には所蔵されていない。保険会社の社史資料室には保管されているものもあるが、その会社のものでしかなく、当時の多くの保険会社の史料を統一的に閲覧する場所はない。

この連載を続けているひとつの動機は、こういった保険関連の「雑史料」を広く業界の方に知っていただき、それらを収集したいと考えたことである。これまでの収集活動により、それなりの収集ができてきているものの、まだまだ不十分なので、保険会社関連のパンフレット類を処分される方はぜひご連絡いただきたい。コレクターではないのでいわゆる好事家的な趣味はない。あくまでも史料収集なので、将来、保険史研究のために史料を公開することが夢である。

今回の連載では、火事そのものの描写と火事の原因の画像を紹介し、最後に火災保険にとっては画期的であった、火事とは無関係な図柄を紹介して結びとする。

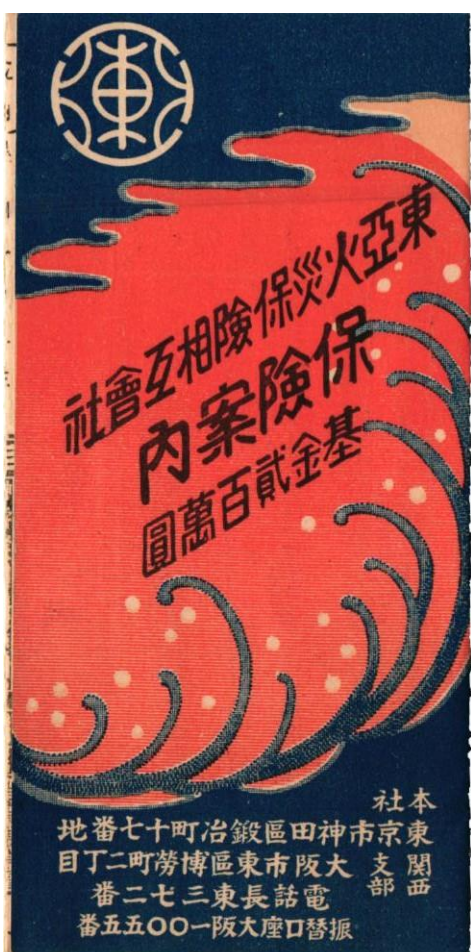
火事そのものを図柄に採用した「保険案内」はよく見られる。闇夜に燃えさかる火事と火の見櫓の組み合わせを基本とする日本火災のそれは代表的なものである。カラーでないのが残念だが、日本火災（旧日本興亜の前身会社）の「保険案内」を掲載しておこう。火災を図案化したものとして次に掲載した東亜火災のものも面白い。同社は戦前で唯一、火災相互保険会社として設立されたが、設立間もなく営業不振となり、日本保険業史から姿を消してしまった。史料関係はほとんど残されていないので、この「保険案内」は貴重な史料でもある。愚痴の体表用海上の「保険案内」は、火事を背にして不動明王が鎮座して

いる図柄である。絵は決して上手だと言えないが、火災の恐ろしさと保険会社の安心感をよく著した図柄である。

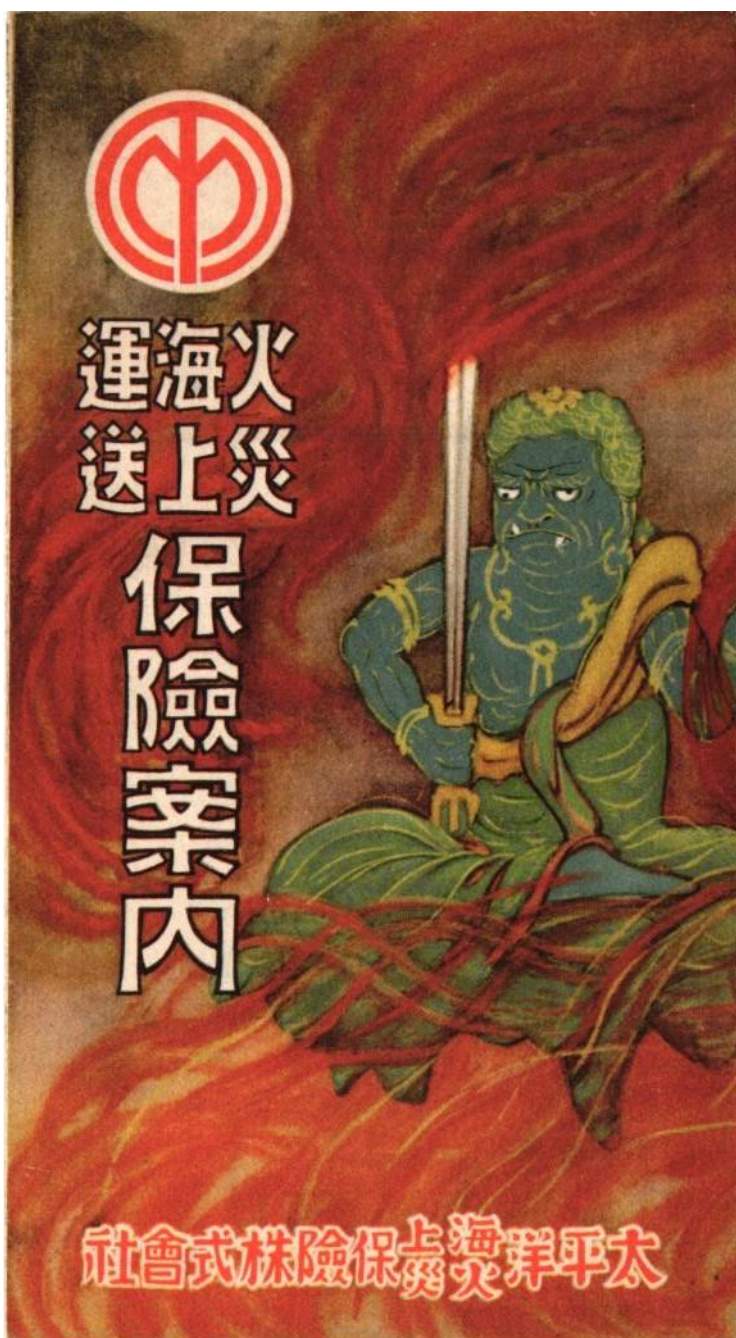
次に火事の原因となるマッチやタバコの図柄を紹介しよう。扶桑海上（旧住友海上の前身会社）の図柄はマッチとマッチ箱から火事を連想させるものである。次の太平火災は、灰皿から落ちそうになっているタバコの吸いさし印象的。とくに丸い枠からはみ出ているタバコの煙が見る者の不安を誘う。

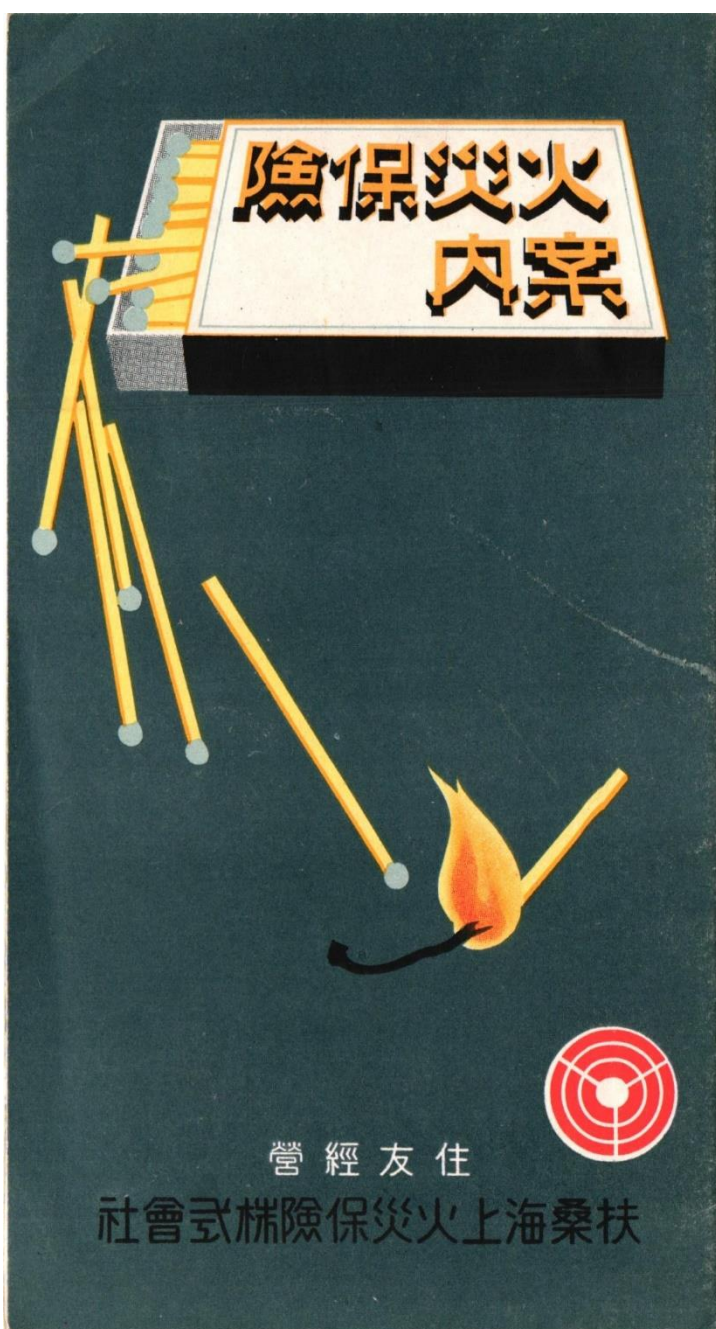
戦前の火災保険案内にみられる火事に関連するデザインの中で、異彩を放つのは東京火災（旧安田火災の前身会社）のものである。同社の社史にも世間を驚かせたというようなことが書かれている。ここに掲載したのは、東京火災の東郷青児の美人画シリーズの一枚である。美人画といえば、東京動産（旧大東京火災の前身）が伊東深水の美人画を使っていたが和風の美人であり、火災と関連付けた図柄であった。東京火災のものは、洋風美人画であり、かつ火災との関係づけがまったくない。東郷青児の独特な画風もさることながら、当時の火災保険の顧客はさぞ驚いたに違いない。しかし火災保険の案内のデザインが火事と結びついていれば、火災保険の募集が進むというわけでもないだろうから、洋風美人画をとりあげた東京火災のマーケティングのセンスは大変優れていたと思われる。額に飾っておきたいような保険案内である。





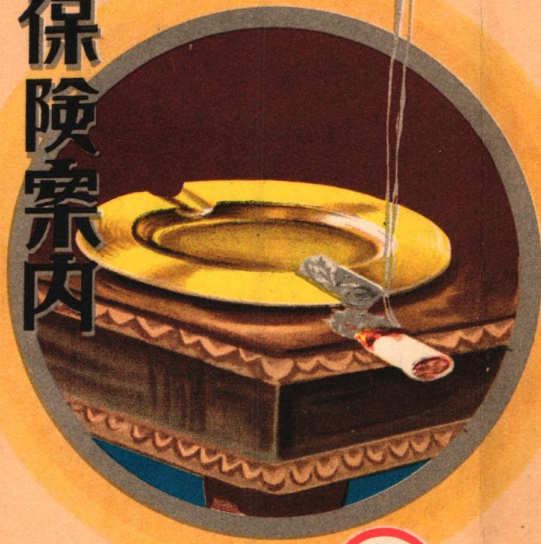








火災保險案内



太平火災海上保險株式會社

代 理 店	臺 北 駐 在 所	京 城 駐 在 所	札 幌 駐 在 所	廣 島 駐 在 所	金 澤 駐 在 所	仙 臺 駐 在 所	名 古 屋 出 張 所	神 戶 出 張 所	橫 濱 出 張 所	福 岡 出 張 所	大 阪 支 店	本 支 店	
内地、臺灣、朝鮮、滿洲ノ各主要地ニ參于餘ヶ所アリ	臺北市大正町一丁目 (電話五三〇四三六二)	京城市南大門通三丁目 (電話本局〇三三六二)	札幌市南二條西三丁目 (電話本局〇三三六二)	廣島市南二條西三丁目 (電話本局〇三三六二)	金澤市橋本四丁目 (電話本局〇三三六二)	仙臺市(東京火災ビル)分二階 (電話本局〇三三六二)	名古屋市中區榮町三丁目 (電話本局〇三三六二)	神戸市(東京火災ビル)三階 (電話本局〇三三六二)	横濱市中區本町二丁目 (電話本局〇三三六二)	福岡市(東京火災ビル)東入ル (電話本局〇三三六二)	淀屋橋(安田ビル)四階 (電話本局〇三三六二)	大坂市(安田ビル)四階 (電話本局〇三三六二)	東京日本橋區吳服橋一丁目 (電話本局〇三三六二)



作兒青郷東



社會式株險保 災火京東